

氏名 <small>(法人にあっては名称)</small>	株式会社 デンソー九州
住所	広島市安芸区上瀬野南二丁目5-1
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和3年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	自動車部分品・附属品製造業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：3113)
事業概要	昭和40年(株)日本電装の広島工場として創業開始。平成20年4月(株)デンソー北九州製作所と統合。平成26年4月デンソー九州に社名変更。 熱機器製品、パワトレイン製品等を生産し、トヨタ、マツダ、三菱他に納入している。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度(平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度(平均値)
温室効果ガス実排出量(*5)	4,396 t-CO ₂	4,222 t-CO ₂	4,874 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		4.0 %	-10.9 %	%	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		4,222 t-CO ₂	4,874 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		4.0 %	-10.9 %	%	%	%
実績に対する自己評価	今後も、更なるCO2削減改善に向け、工場全体で省エネ改善積み上げに取り組み。					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふつ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4~令和6年度(平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4~令和6年度(平均値)
輸送用機械器具製造業	0.1972	0.1894	0.2104			
		4.0 %	-6.7 %	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価	温室効果ガスの排出量と密接な関係を持つ値として、売上金額(単位:百万円)を指標とし、温室効果ガス実排出量の抑制として、省エネ改善に全員で取組み、原単位が向上した事は評価に値する。					

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・令和4年度事業所目標達成に向けてCO2削減活動計画を立案及び追加案件の、省エネ改善(合計20件)を実施した。その結果、約44t-CO2のCO2削減を図る事が出来たので、主な改善案件を下記に記載します。

1. 換気扇高効率モーターへ更新
2. 照明器具LED化(3件)

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況(環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

(1) 不要時の照明消灯・空調設備停止等、全員参加の省エネ活動を展開している。(2) 全社通達を夏季・冬季の年2回発行し、空調設備の設定温度を管理し(夏28℃・冬19℃)社員全員で温度管理に努めた。(3) 省エネルギーセンター発行、省エネルギー特集誌を社内で回覧し、省エネに関する知識、他社の取り組み等を共有し、知識向上を図っている。(4) 省資源推進会議を定期的実施。

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
 *8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社デンソー九州 広島工場
事業所の所在地	広島県広島市安芸区上瀬野南二丁目5-1
事業所の業種	輸送用機械器具製造業
事業の概要	自動車部分品・附属品製造業

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4~令和6年度(平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4~令和6年度(平均値)
温室効果ガス実排出量(*4)	4,396 t-CO ₂	4,222 t-CO ₂	4,874 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		4.0 %	-10.9 %	%	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*5)		4,222 t-CO ₂	4,874 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		4.0 %	-10.9 %	%	%	%
実績に対する自己評価	今後も、更なるCO2削減改善に向け、工場全体で省エネ改善積み上げに取り組み。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

・令和4年度事業所目標達成に向けてCO2削減活動計画を立案及び追加案件の、省エネ改善(合計20件)を実施した。その結果、約44t-Co2のCO2削減を図る事が出来たので、主な改善案件を下記に記載します。

1. 換気扇高効率モーターへ更新
2. 照明器具LED化(3件)

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況(環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

- (1) 不要時の照明消灯・空調設備停止等、全員参加の省エネ活動を展開している。(2) 全社通達を夏季・冬季の年2回発行し、空調設備の設定温度を管理し(夏28℃・冬19℃)社員全員で温度管理に努めた。
- (3) 省エネルギーセンター発行、省エネルギー特集誌を社内で回覧し、省エネに関する知識、他社の取り組み等を共有し、知識向上を図っている。(4) 省資源推進会議を定期的実施。